シンボルツリー

剪定

剪定が必要な理由

1 木の健康を保つ

密集した枝を剪定することで、日当たりと風通しがよくなり、病害虫の発生を防ぎます。また、木全体に栄養が行き渡りやすくなります。

2 美しい樹形を維持する

3 大きさをコントロールする

成長しすぎると、隣家とのトラブルや、電線に枝が触れるなどの問題に。定期的な剪定で適切な大きさを保ちましょう。

剪定時期

木の成長サイクルに合わせて行う。
常緑樹は、成長が落ち着く梅雨前や、9月〜10月頃。

剪定方法

1 枯れた枝や病気の枝を切る

2 密集した枝を切る

POINT

一度に切りすぎると、木が弱るため、全体のバランスを確認しながら、少しずつ剪定する

水やりと肥料

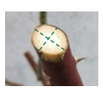
水やり 植え付けから1年ほどは、土が乾いたらたっぷりと水を与えます。夏は乾きやすいので、朝夕の涼しい時間に。根付いた後は、基本的に雨水だけで大丈夫です。

肥料 木の成長を助けるために、年に1〜2回、成長期に入る少し前に与えます。

剪定した枝を飾り、室内でも緑を楽しむ

1.花瓶に合わせて枝の長さを調整する

2.切り口に十字の切れ目を入れる



3.たっぷりの水につけ、しっかりと水揚げをする

オススメお手入れグッズ

①コンパクトガーデンリール：軽量・コンパクトがコンセプト②錠剤肥料シリーズ オリーブ用③garageオリジナル剪定鋏：新潟県三条市にある老舗刃物店「外山刃物」の剪定鋏。日本刀と同じ製法

観葉植物

日当たり

新芽が出たら窓辺へ

観葉植物は、日光不足で弱ることもあるため、定期的に窓辺に置きましょう。5〜10月は屋外（日陰）に出すことが可能ですが、葉焼けに注意が必要です。

POINT

新芽が出たら2〜3週間、窓辺で日光に当てると、エネルギーが蓄えられ、日陰でも育てられる

水やりと葉水（葉に水をかける霧吹き作業）

水やりはベストなタイミングでたっぷりと

土の表面を少し掘り、乾いていたら鉢底から水が出るまでたっぷりと水を与え、葉水は週2回ほど行う。

POINT

・受皿に溜まった水は必ず捨てる
・冬は水道水が冷たいため常温(15~25℃)の水で

風通し

サーキュレーターなどで空気の流れをつくる

葉は風を感じ、光合成や呼吸が活発になります。カビの発生や蒸れを防ぐためにも、空気の流れつくりましょう。

POINT

・冷暖房の風は直接当てない
・冬は窓辺に置かない。冷気が伝わり弱る原因に
・夏の外出時は換気扇やサーキュレーターをまわす

育てやすい観葉植物

①フィカス・ベンガレンシス②エアプランツ③ザミオクルカス④シェフレラ・レナータ
葉が肉厚で水持ちがよい。明るい日陰で育てる

オススメお手入れグッズ

①garageオリジナルジョーロ②CLAYMORE FAN V600+
③garageオリジナルミストスプレー④水でうすめる有機肥料⑤MY PLANTS 虫からやさしく守るミスト

誌上メンテナンス講座

VOL.66

長く楽しむ育て方

観葉植物とシンボルツリーを

監修：ガレージ
garage
Living with plants